

平成22年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2011

新潟県長岡市教育委員会

平成22年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2011

新潟県長岡市教育委員会

例　　言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査のうち、平成22年度国庫・県費補助金の交付を受けて実施した調査の報告である。ただし、大倉地区試掘調査は長岡市単独事業である。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、1を田中、その他は各調査担当者が分担した。編集は丸山が行った。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における [] は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方からご協力、ご教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

越後ながおか農業協同組合 小国土地改良区 上岩田地区ほ場整備推進委員会
長岡地域振興局地域整備部道路課 長岡地域振興局地域整備部与板維持管理事務所
長岡地域振興局農林振興部農村計画課・農地整備課 三島郡北部土地改良区

石坂圭介 駒形敏朗 長澤展生

目　　次

1	平成22年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2	寺泊求草地区試掘調査	4
3	川袋地区試掘調査	7
4	島崎地区試掘調査	8
5	左近地区試掘調査	11
6	立矛遺跡試掘確認調査	12
7	上岩田地区試掘調査	14
8	大倉地区試掘調査	17

1 平成 22 年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

(1) はじめに

長岡市は新潟県のはば中央部に位置し、平成の 3 次にわたる大合併により 2 市・7 町・2 村がひとつになって誕生したものである。本市の行政面積は、新潟県全体の 7.1%ほどにあたる 890.9km²に達しており、その中に約 28 万人の人々が暮らす、中越地方最大の都市として知られている。

地形的には、市の中央部を日本一の長さと流量を誇る「信濃川」が縦貫し、その両岸には大河に育まれた肥沃な沖積平野が形成されている。新潟平野の南端をなすこの沖積地の東西には、東山丘陵および、西山丘陵と通称される東頭城丘陵が、それぞれ対するように連なる。東山丘陵の東、柄尾地域の南東方面には、越後山脈に属し標高 1,537 m を測る守門岳がそびえる一方、市域北側の寺泊地域では、日本海に面して全長約 16km の南北に伸びる海岸線を持つ。

このように長岡市の地形は、急峻な山岳地帯から丘陵・平野・海岸などで構成され、非常に変化に富んでいる点に特徴がある。この多彩な自然環境の中、本地域には約 1,400箇所もの遺跡が確認されている。



第 1 図 長岡市の位置

(2) 平成 22 年度調査の概要

平成 22 年度、長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は、合計 9 件を数える。調査原因別に内訳を見ると、道路建設（市道・国道）に伴うものが 4 件で最も多く、県営は堤整備事業と河川改修が各 2 件、公共施設建設（浄水機場建設）が 1 件であり、このほか、諸開発に伴う工事立会いを 11 件実施している。このうち、夏戸城跡・赤坂山城跡・魔王城跡における立会いは、いずれも市民活動による自主的な登山道整備・堀しゅんせつといった史跡の環境整備に起因するものであり、市民力による史跡の顕彰・整備の試みとして注目される。

つづいて、本年度の試掘・確認調査の結果について概観する。実施した 9 件の調査のうち、遺構や遺物が検出されたものは 5 件であった。

このうち、河川改修事業に伴う川東遺跡については、遺跡範囲外における遺物の発見や、河川改修に連動する県道付け替えに伴い、追加確認調査を実施したものである（島崎地区・川東遺跡）。その結果、古墳時代および平安時代の遺構・遺物が検出され、遺跡範囲が大幅に拡大した。これを受け、新潟県与板維持管理事務所と協議を行い、拡大箇所についても平成 22 年度の本調査対象範囲に含めることになった。

市道建設に伴う立矛遺跡の調査では、縄文時代前期の



写真 1 調査風景（島崎地区）

織維土器や弥生時代後期の天王山式器など注目される遺物が出土し、平成 23 年度中に本調査が実施できるよう現在協議を進めている。

このほか、市道改良工事に伴う来迎寺原地区および、浄水機場建設に伴う大倉地区的試掘調査では、遺物がごく微量検出されただけに終わり、本調査は不要と判断された。

以上、本年度に行われた試掘・確認調査の実施状況を概観したが、本調査対象とならなかった地区についても、埋没地形・地質等に関する多くの知見が得られるなど、今後の調査に役立つようなデータの蓄積がなされたことを付記しておく。

第 1 表 平成 22 年度長岡市内確認・試掘・立会調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	夏戸城跡	史跡整備	立会（遺構・遺物なし）
	赤坂山城跡	史跡整備	立会（遺構・遺物なし）
	寺泊求草地区	県営ほ場整備事業	試掘（遺構・遺物なし）
与板	本与板城跡	人工林の間伐	立会（遺構・遺物なし）
和島	島崎地区	河川改修事業	試掘 平安時代の柱穴 / 須恵器 / 土師器 →川東遺跡の範囲変更 →平成 22 年度本調査実施
			確認 古墳時代・平安時代の土器 →平成 22 年度本調査実施（川東遺跡）
	川東遺跡	河川改修事業（県道付替）	立会（遺構・遺物なし）
	八幡林遺跡	県営ほ場整備事業	立会（遺構・遺物なし）
越路	来迎寺原地区	市道改良工事	試掘 土坑 / 繩文土器 / 弥生土器 / 石器 →分布が希薄なため本調査不要
	立矛遺跡	市道建設	確認 土坑 / 繩文時代～弥生時代の土器
	上並松遺跡 立矛南遺跡	天然ガス・フローライン敷設	立会（遺構・遺物なし）
	飯塚原A遺跡	デジタルテレビ中継局建設	立会（遺構・遺物なし）
	上岩田地区	県営ほ場整備事業	試掘 平安時代の土器 / 中世の掘立柱建物
柄尾	柄倉遺跡	土砂採集	立会（遺構・遺物なし）
	大倉地区	浄水機場建設	試掘（遺構・遺物なし）
長岡	藤王城跡	堀のしゃんせつ	立会（遺構・遺物なし）
	左近地区	国道建設	試掘（遺構・遺物なし）
	川袋地区	市道建設	試掘（遺構・遺物なし）
	長岡城跡	建築物解体	立会（遺構・遺物なし）
	長岡城跡	個人住宅	立会（遺構・遺物なし）
川口	西倉遺跡	農免道路拡幅	立会 少量の縄文土器



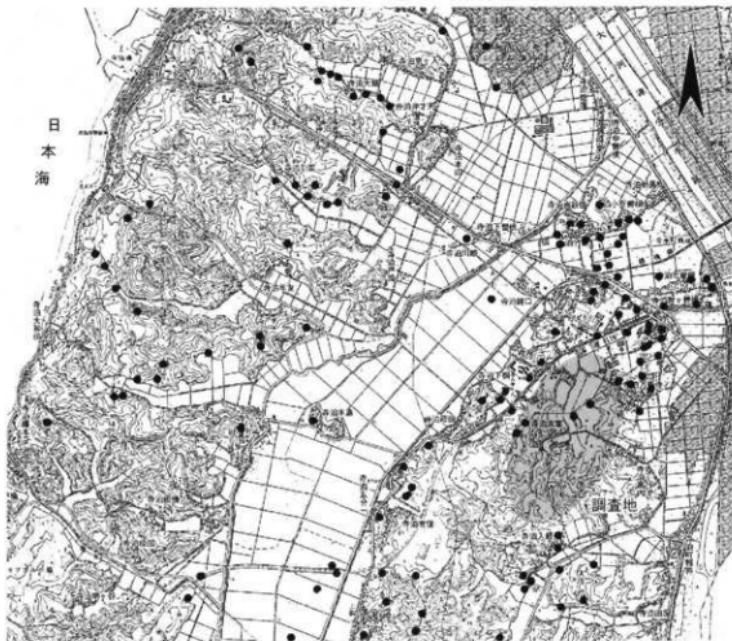
第2図 平成22年度調査位置図 (1/250,000)

2 寺泊求草地地区試掘調査

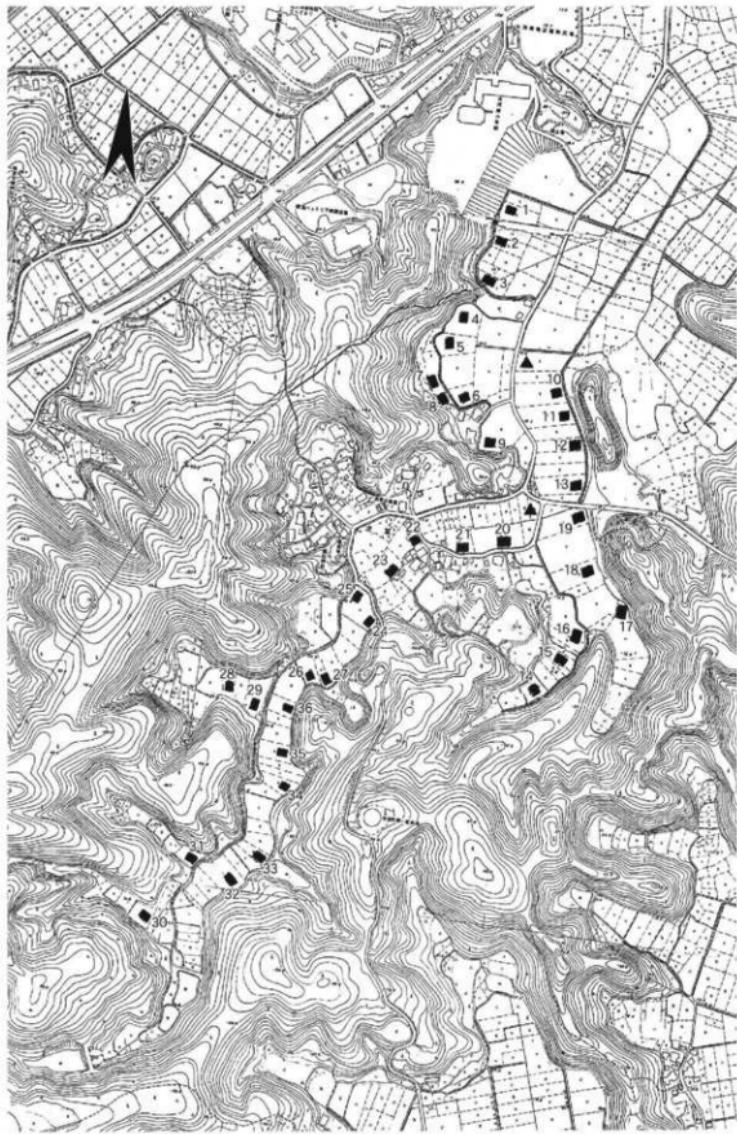
調査地	長岡市寺泊求草	調査面積	54ha (対象面積 320,000m ²)
調査期間	平成 22 年 9 月 29 日～10 月 2 日	調査担当	加藤由美子

調査に至る経緯 寺泊求草地内において県営は場整備事業が計画され、埋蔵文化財の取扱いについて事業者である新潟県長岡地域振興局農林振興部農村計画課（以下、事業者）と協議を行った。協議の結果、事業計画地に周知の埋蔵文化財は存在しないが、計画地周辺の丘陵頂部では中世の塚等の存在が知られており、事業計画地にも未知の遺跡が存在する可能性があるため、事業に先立ち試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。また、事業計画地では現在も耕作が行われているため、試掘調査は秋の稲刈り後に実施することで地元の了解を得た。

調査地の概要 調査地は東側丘陵の東側丘陵の先端部附近に位置する。東側丘陵の先端部では羊歯状に小丘陵が発達し、小さな谷地形が多く形成される。今回の調査地は谷地形の底部に広がる田面であり、標高は谷の開口部で約 12 m、谷の最深部で約 36 m である。周辺の丘陵頂部や尾根筋上では弥生時代後期の高地性集落や、弥生時代から中・近世にかけての墳墓や塚が多く確認されている。また、丘陵裾部では古墳時代から古代にかけての遺物包蔵地が点在する。今回の調査では、丘陵頂部あるいは裾部に所在する遺跡からの遺物の流れ込みを想定し、丘陵裾部を中心にトレンチを設定した。



第3図 調査地周辺の地形と遺跡の分布状況 (1/50,000)



第4図 トレンチ配置図 (1/7,500)

調査の結果 事業計画地のうち、排水路及びバイオライン予定部分に 1×1.5 m のトレーニングを 36 箇所設定し、バックホウ及び人力で掘削を行った。事業計画地では、平成 21 年度に設計書作成のための土質調査が行われており（第 4 図：▲印）、今回のトレーニング設定に当たっては、その結果も参考にした。

いずれのトレーニングでも田面下 20 ~ 60cm で植物遺体を含む暗灰～茶褐色粘質土が確認された。低湿地で顕著に見られるいわゆるガツボ層で、この層は谷の開口部に近づくほど厚く堆積し、谷の最深部でも確認できる。今回の調査は工事計画深度までを対象としたため、ガツボ層が厚く堆積する地点では、地山の確認にまで至らなかった。丘陵裾部では、灰白～黄褐色粘質土の地山を確認することができたが、造構は検出されなかった。また、当初想定した丘陵頂部や丘陵斜面からの遺物の流れ込みも確認できなかった。

調査の結果、遺物・造構は発見されなかったため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に際して支障がない旨を事業者に伝えた。

なお、調査終了後は、末期の耕作時にトレーニング部分の地盤沈下が起こらないよう、川砂を充填しながら埋め戻し作業を行った。



写真1 調査地遠景

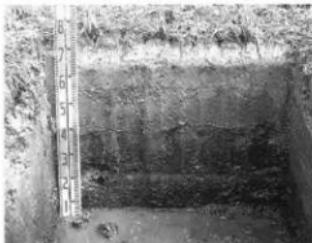
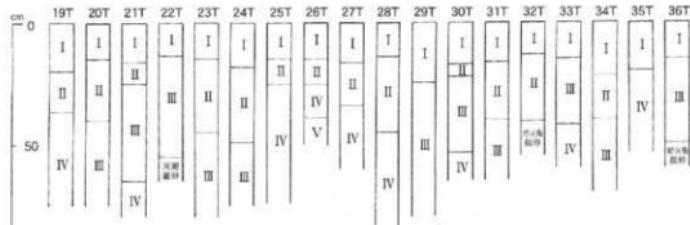
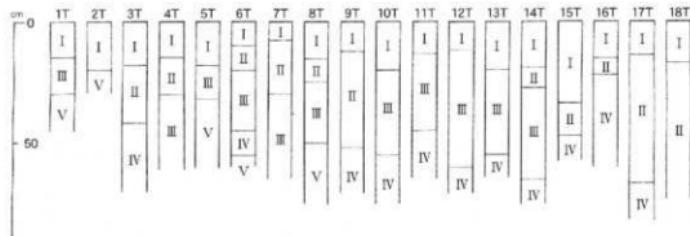


写真2 19T 土層断面



I: 耕作土

II: 暗灰粘質土

III: 暗灰粘質土 (植物遺体をわずかに含む)

IV: 茶褐色粘質土 (植物遺体を多く含む)

V: 灰白～黄褐色粘質土 (地山)

第5図 土層柱状図 (1/20)

3 川袋地区試掘調査

調査地 長岡市川袋町

調査面積 21.8m² (対象面積 420m²)

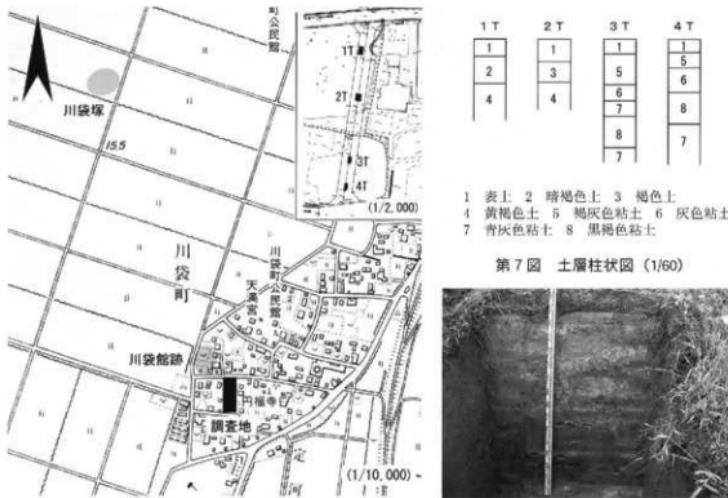
調査期間 平成 22 年 9 月 24 日

調査担当 山賀和也

調査に至る経緯 川袋地区において市道新設事業が計画され、埋蔵文化財の取扱いについて事業者である長岡市道路建設課（以下、事業者）と協議を行った。事業計画地には、周知の埋蔵文化財は存在しないが、近くに川袋館跡が存在しており、周辺に遺跡が存在する可能性があるため、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。

調査地の概要 調査地は信濃川左岸の沖積地の微高地に位置しており、標高は約 16 m である。現在は住宅地となっている。調査地に隣接する位置に川袋館跡が存在し、北西の水田中に川袋塚が存在していた。川袋館跡は、城壁等の記録は残っていないが、明治年間の地籍図から、土塁や堀を四隅に造らした一辺が約 70m の規模の館であったと推定される。しかし、過去の土地改良などにより現在土塁などは失われている。川袋塚は発掘調査が行われており、塚の盛土から近世陶磁器が出土していることから、近世に構築された塚であることが確認されている。また、塚の周辺から中世陶磁器が発見されており、周辺に中世の遺跡が存在したと推測される。

調査の結果 事業計画地に 2×3 m のトレンチを 4箇所設定し、バックホウで慎重に掘削を行った。1・2 T は、現地表面から深さ 50cm 程度で黄褐色土が確認された。3・4 T は、現地表面から深さ 1m 付近で廃材等が見られた。地権者の話では過去に水田であったが今の高さまで土を盛っているとのことであったため、廃材は、盛土の際に入り込んだものであり、これより上層はすべて盛土であることが確認された。いずれのトレンチも遺物、遺構は発見されなかったため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



第 6 図 調査位置図及びトレンチ配置図

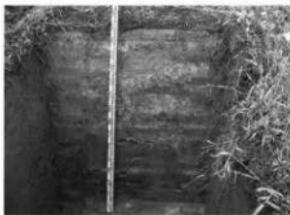


写真 3 3 T 土層断面

4 島崎地区試掘調査

調査地	長岡市島崎	調査面積	256m ² (対象面積 22,800m ²)
調査期間	平成 22 年 6 月 3 日～8 日、12 月 14 日	調査担当	丸山一昭

調査に至る経緯 和島地域を流れる郷本川は笠抜山村近に源を発し、保内川、小島谷川、荒巻川を合流し寺泊地域の丘陵地帯を抜けて日本海に注ぐ、延長 12.3km の二級河川である。明治初期の大河津分水工事により西川と分断された旧島崎川を母体に、寺泊郷本地区から日本海に排水させるために掘削された人工河川である。排水機能が低い郷本川は市街地の島崎地区を流れることから、度々水害をもたらしてきた。このため新潟県では水害の抜本的解決策として、島崎地区的河道を迂回させ新河道を開削する工事を進めている。これに伴い、長岡市教育委員会では事業者の新潟県長岡地域振興局地域整備部と板維持管理事務所と協議を重ね、開発予定地における試掘・確認調査を平成 20 年度から実施している。今年度は、前回の試掘調査で新たに発見された川東遺跡・浦反甫東遺跡の周辺部と市街地周辺、及び西側の調査を実施した。

調査地の概要 調査地は西側の小島谷川合流点付近と東側の荒巻川の合流点付近に分かれる。調査地周辺には平安時代の浦反甫遺跡や浦反甫東遺跡、弥生時代から中世の川東遺跡が存在する。いずれも水田下に埋没した自然堤防上に營まれた遺跡である。調査地の現況は水田等で標高は 16.5 m 前後である。

調査の結果 合計 30 箇所に調査トレンチを設定し、バックホウによる掘削を行った(第 8 図)。この結果、1 T・2 T・7 T・22 T・23 T・27 T～29 T で遺構・遺物が確認された。調査地の東側、川東遺跡の北部にあたる 1 T・2 T はすでに掘削されていた河道断面に遺構・遺物が発見されたことから、残存部に設定したトレンチである。2 T では比較的良好な状態で平安時代の遺構・遺物が分布していることが判明した。遺構確認面は地表下およそ 30cm と比較的浅く、周辺に良好な地盤の微高地が存在した可能性が高い。確認された遺構は小規模な柱穴や溝などで、集落や水田等が存在した可能性がある。

調査地西側の 23 T では、平安時代の遺物が少量ながら出土し、さらに落ち込み状の遺構が発見された。周辺の 22 T・27 T～29 T では、わずかに遺物包含層が認められ平安時代の遺物が出土したもの、明確な遺構は確認されなかった。このことから、これらの出土遺物は二次堆積によるものと考えられる。遺跡の中心は水田より一段高い畑地にある可能性が高い。東側の 20 T～6 T、及び南側の 16 T～18 T では、遺構・遺物ともに検出されなかった。

出土遺物 第 9 図に主要な出土遺物を図示した。1～6 は 2 T、7・9 は 22 T、8 は 23 T、10・11 は 29 T からの出土である。1 は須恵器壺蓋で口径 14.4cm、胎土に白色の長石が多く含まれる。2～4・9・10 は須恵器有台杯で底径 6～12cm ほどのものが見られる。底部から口縁部まで復元できるものがないため器形の詳細は不明であるが、底径が 10cm 以下で深身になるものと底径が 12cm 前後で浅身になると考へられる。高台は断面が方形のもの、もしくは端部が突出するものが見られる。4 の底部には左まわりの回転ヘラ切り痕が見られる。7・8 は須恵器無台杯で口径は 14cm 以上になると考へられる。5・11 は須恵器甕と見られる。5 は口径 25cm を測る。6 は土師器無台碗である。底径 6.2cm を測る。底部には右まわりの回転系切り痕が見られる。以上の遺物は、その形態的特徴から 9 世紀代に位置付けられる。

まとめ 2 T では古代の遺構・遺物が確認され、川東遺跡はその分布範囲がさらに北に広がることが判明した。このため 2 T 周辺の河川改修部分約 90m については、引き続き本調査を実施した。調査地西側の 22 T 周辺では少量ながら古代の遺物が出土したことから、浦反甫西遺跡として埋蔵文化財包蔵地カードに新たに登録・周知化し、開発事業者と今後の対応を協議していくこととした。

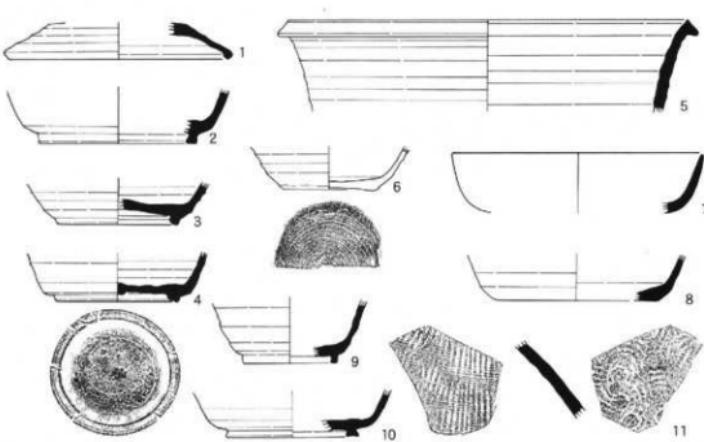
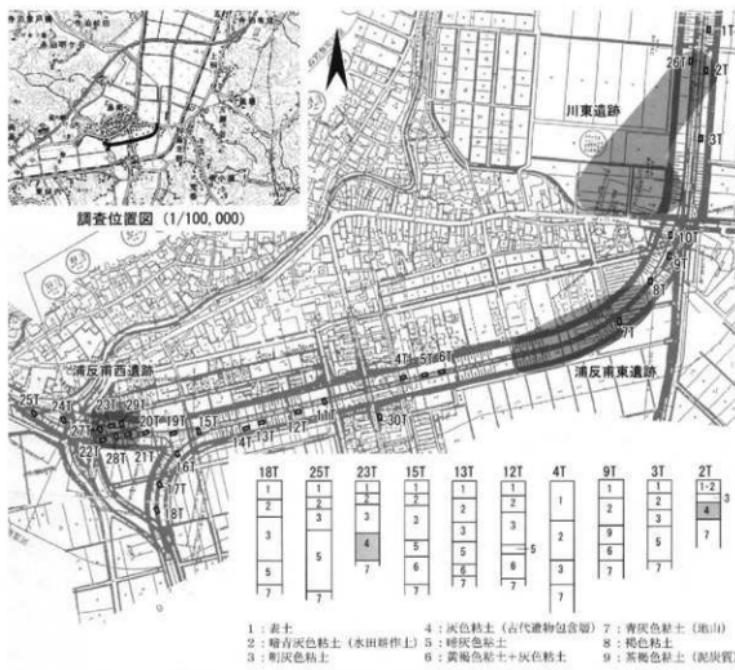




写真4 調査地近景（2T周辺）



写真5 2T遺構検出状況

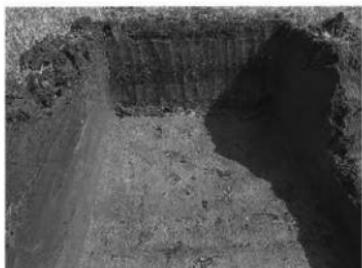


写真6 9T完掘状況



写真7 18T完掘状況



写真8 調査地近景（22T周辺）



写真9 22T土層断面

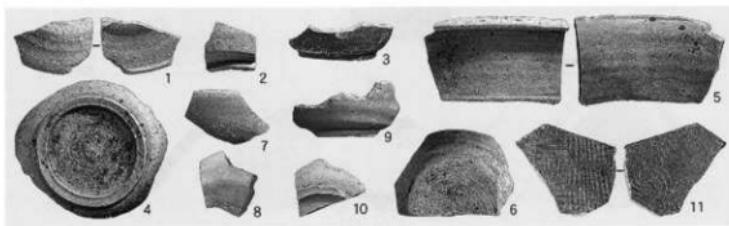


写真10 出土遺物

5 左近地区試掘調査

調査地	長岡市左近1丁目ほか	調査面積	33.2m ² (対象面積 7,450m ²)
調査期間	平成22年8月10日	調査担当	鳥居美栄

調査に至る経緯 一般国道404号長岡東西道路整備計画は、平成6年度に地域高規格道路として計画路線が指定され、そのうち、信濃川を挟む約3kmが平成9年度に整備区間として指定されている。整備区間の範囲には周知の遺跡は所在せず、地形などから遺跡が所在する可能性は低いと判断され、信濃川左岸での盛土工などが進められてきた。近年、沖積地での遺跡の発見例が増えており、長岡市教育委員会は、信濃川右岸側の整備工事が本格化するにあたり、事業主体者である新潟県長岡地域振興局、また、国道整備事業に併せて進められる市道整備の事業主体者である長岡市土木部土木政策調整課及び道路建設課との協議を平成21年5月から開始した。協議の結果、国道計画地を対象に試掘調査を行い、その結果により市道計画地の試掘調査の必要性を検討することとなった。事業進捗の関係から、信濃川から太田川の間にについては、新潟県長岡地域振興局からの協力を得て平成21年度に試掘調査を行った。その結果、太田川の左岸は信濃川の氾濫原であり、遺跡が所在する可能性は極めて低いことを確認した。

調査地の概要 信濃川右岸の沖積地内、太田川にかかる左近橋から東に伸びる道路の両脇にあり、標高は約24mである。わずかに残る水田以外は過去に店舗などが設けられ、現在は建物基礎や駐車場のアスファルト舗装が残存している。周辺は宅地として利用されている。事業地の北約500mには左近館跡、南西約600mには玄蕃館跡という中世の館跡が所在していたが、いずれも土地区画整理により消滅している。

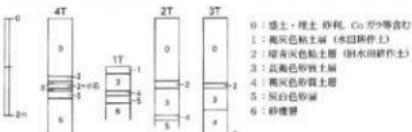
調査結果 水田部分や建物基礎の除草が行われている部分に4箇所の調査トレーンチを設定し、バックホウ及び人力で掘削を行った。水田に設定した1Tでは耕作土の下に信濃川の氾濫による見られる砂の堆積を確認した。2~4Tでは、旧店舗を建設・除却した際の盛土や埋土の下に旧水田耕作土及び砂層を確認し、水田を埋め立てて店舗などが敷設されていたことを確認した。4Tにおいて近世磁器片3点が出土したが、そのほかに近世以前の遺物は出土せず、また、いずれのトレーンチでも遺構は確認されなかった。事業地に遺跡が所在する可能性は低いと判断され、工事実施は支障ないことを事業者に伝えた。



第10図 調査地位位置図 (1/25,000)



写真11 1T完掘状況(東から)



第11図 トレーンチ配置図 (1/100)・土層柱状図 (1/100)

6 立矛遺跡試掘確認調査

調査地	長岡市来迎寺	調査面積	103m ² (対象面積 3,080m ²)
調査期間	平成 22 年 4 月 26 日・11 月 24 ~ 25 日	調査担当	新田康則

調査に至る経緯 調査は市道越路 445 号線建設工事に伴って実施したものである。市道越路 445 号線建設工事（延長 1,497 m）に伴う埋蔵文化財の取扱いは平成 14 年度から協議を開始し、第 1 工区（延長 500 m）に係る措置として平成 19 年に漁浦遺跡の本発掘調査を実施した。立矛遺跡周辺に係る取扱い協議は第 2 工区（延長 380 m）に伴うもので、平成 19 年 2 月から開始した。そして、この協議に資するため、平成 22 年 4 月に試掘調査、さらに 11 月には確認調査を実施した。

調査地の概要 調査地は信濃川左岸に形成された越路原Ⅱ段丘面（片貝面）の東縁部に位置している。立矛遺跡は古く江戸時代から知られた遺跡であり、縄文時代晩期末～弥生時代中期初頭にかけての遺物が数多く採集されている。水神平式に含まれる巣形土器の個体資料をはじめとして弥生時代中期初頭の遺物が多いが、石塚や石棒など縄文晩期の石器類も採集されており、複合遺跡としての様相をみせる。

遺跡周辺は遺跡が集中する地域となっており、立矛遺跡と重なるように立矛の経塚（中世）や朝日百塚（中世）が構築されているほか、立矛南遺跡（縄文時代中期初頭）とも隣接する。さらに、朝日遺跡（縄文中・晚期）・上・松遺跡（縄文時代中～後期）などの遺跡が分布している。

試掘調査 道路建設に付随する農業用水路付替工事に伴い、4 月 26 日に実施した。対象面積 320m²に対して 5 個所、合計 25m² のトレンチ調査を行った。その結果、4 T で土坑と土器を検出したほか、3 T からも土器や剥片が出土した（第 12 図）。出土した土器は、縄文時代～弥生時代前期のものである（第 13 図）。

調査の結果に従って立矛遺跡の範囲を変更し、その旨を平成 22 年 5 月 13 日付長教博第 51 号で新潟県教育委員会教育長に通知した。

確認調査 道路法線に該当する畠地において 11 月 24・25 日に実施した。対象面積 2,760m² に対して 12 個所、合計 78m² のトレンチ調査を行った。なお、調査トレンチの番号は試掘調査からの通し番号とした。調査の結果、そのほとんどのトレンチから土器などが出土し、いくつかのトレンチでは遺構も確認した（第 12 図）。しかし、その量は事前の表面調査から尋かれた予想よりもかなり少ない。調査地は遺跡の北縁部に位置し、ここで表面採集された遺物は、耕作等の影響によって移動してきたのだろう。

出土遺物は弥生土器（中期後半～後期）が多く、縄文土器（前期・中期・晩期）も加わる（第 13 図）。さらに被熱礫・破碎礫、少量の石器（剥片類）が伴う。

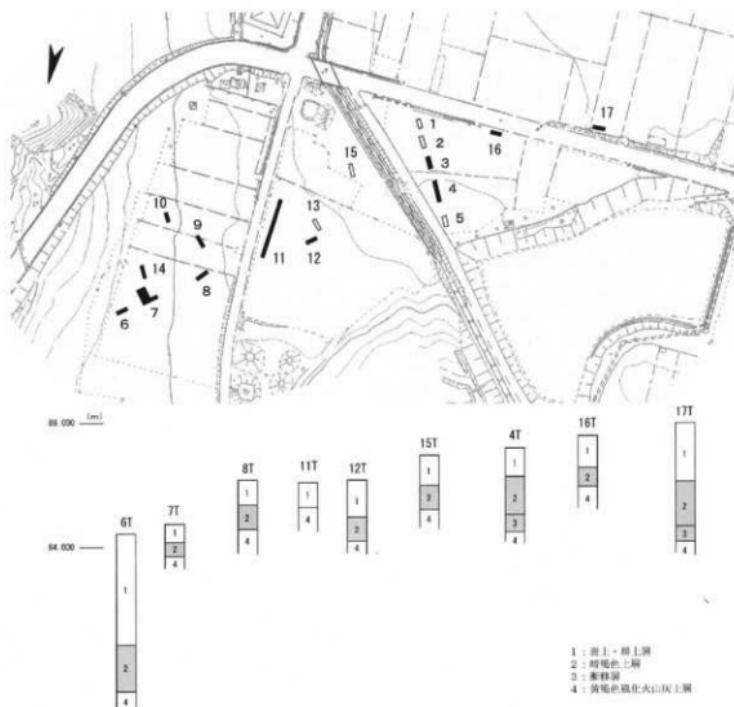
まとめ 試掘・確認調査によって、散漫ながらも広範囲な遺構・遺物の分布が確認された。しかし、遺跡の現状保存は困難であり、記録保存のための本発掘調査を実施する予定である。



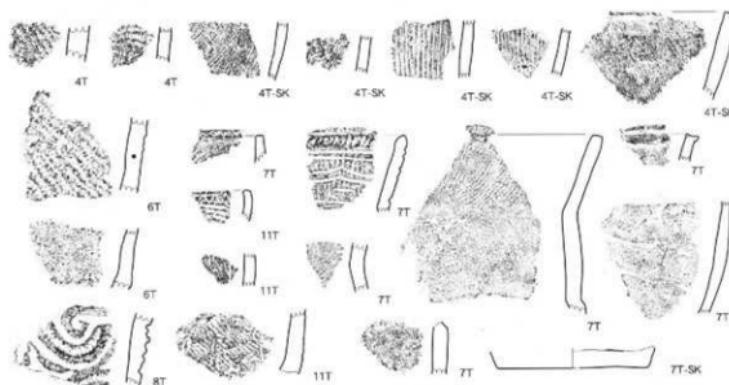
写真 12 遺構出土状況 (4 T・SK1)



写真 13 遺構出土状況 (7 T)



第12図 調査トレンチ配置図 (1/1,500)・土層柱状図 (1/20)



第13図 出土土器 (1/3)

7 上岩田地区試掘調査

調査地	長岡市小国町上岩田	調査面積	744.4m ² (対象面積約490.000m ²)
調査期間	平成22年9月29日～10月27日	調査担当	新田康則

調査に至る経緯 県営は場整備事業上岩田地区の計画に伴い、事業地内における遺跡の取扱いについて新潟県長岡地域振興局農村計画課と協議を行った。事業計画地には延命寺が原遺跡(縄文前～晩期)・浦田遺跡(平安)などの遺跡が分布し、さらに未発見の遺跡が存在する可能性があるため、遺跡の包蔵状況を確認し、その結果を事業計画に反映することとした。今年度はその2年目にあたり、約49haを調査対象とした。

調査地の概要 調査地は渋海川右岸の沖積地へ段丘上

にかけて位置する。小国盆地の段丘については、段丘区分や段丘対比が進んでいない。したがって、従前の例に倣い、調査地に含まれる段丘を「低位段丘面」・「中位段丘面」と表記する。

中位段丘面の南縁には縄文時代晩期の集落跡として名高い延命寺が原遺跡が立地する。昭和41年8月、土地改良事業に伴い発掘調査が実施されているが、豊穴住居から出土した晩期中葉の土器群は、中越地方を代表する内容をもっている。遺跡は開発によってほぼ埋滅したとされたが、昨年度の調査で、広範囲にわたり包含層が遺存していることが判明した。また、同じ段丘面には延命寺北遺跡が位置する。この遺跡は谷頭に形成された縄文時代の小規模遺跡であると考えられる。ただし、「土地改良以前は、延命寺が原遺跡だけでなく、この周辺でも石器をいくつも採集できた」という古考の話もあり、土地改良事業によつて主体部を大きく削除されてしまった遺跡である可能性をもっている。

低位段丘面上には浦田遺跡・西巻遺跡・野田遺跡が知られている。浦田遺跡は県営は場整備事業に伴つて平成9年に本発掘調査が実施され、10世紀前半を主体とする土器類・須恵器、これに伴うと考えられる掘立柱建物跡、そして近世の土塹墓群などが検出されている。西巻遺跡は、舌状に延びた台地の端部に位置する遺跡で、現在は諏訪神社が鎮座している。古墳時代の土器類が表採されたという記録(遺跡カード)はあるが、詳細は不明である。また、野田遺跡は沖積地に位置する遺跡である。遺跡カードには、昭和35年ごろ実施された区画整理事業の際に土器類の壊が出土した、という記載があるものの、この遺跡についても詳細は不明である。

調査の結果 116箇所のトレンチを設定して調査を実施した。その結果、新たに2地点の埋蔵文化財包蔵地を発見した。94Tを中心とした平安時代の包蔵地と、103・111Tを中心とした、恐らく中世に帰属すると推測される包蔵地である。以下に概要をまとめると。

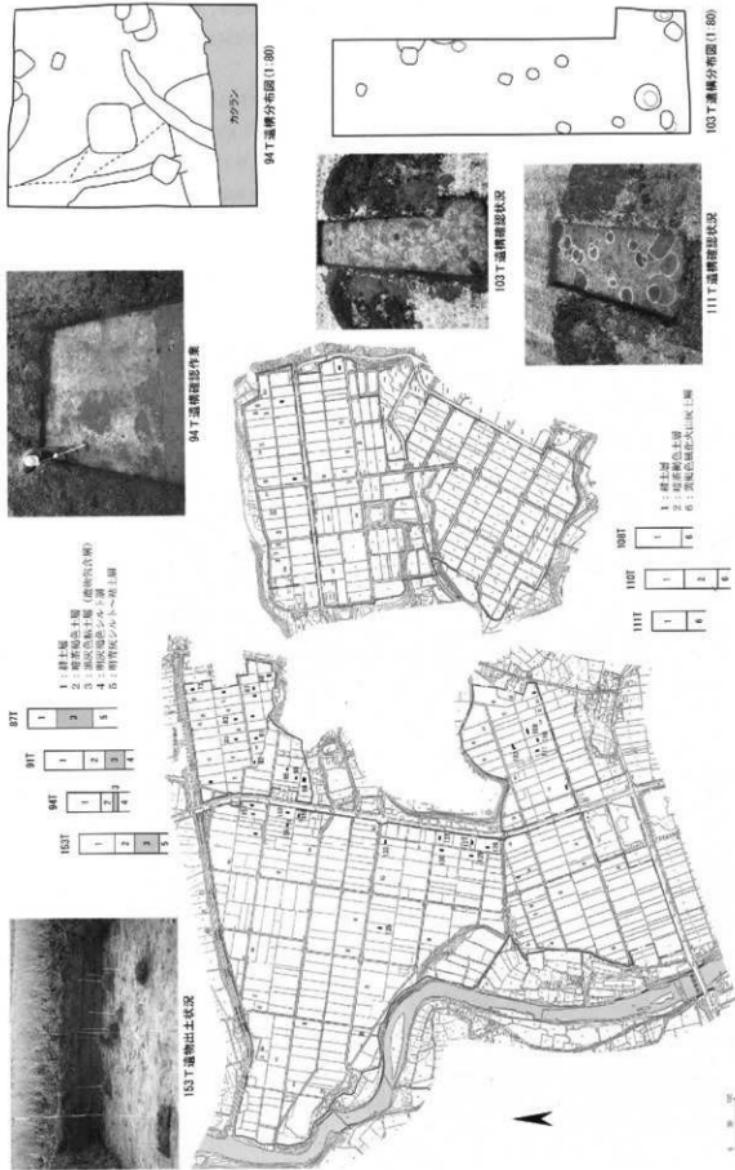
94T周辺 73・81・83・87・88・91・93・94・95・151・152・153Tで土器片が出土した。特に94・153Tの遺物出土量が多い。さらに、94Tでは土器・須恵器とともに土坑を検出したほか、96・151・156Tでは土坑や溝もしくは構造プランを検出した。

この周辺は、渋海川に向かって緩やかに下る緩斜面地であり、そこに段の低い田面が築かれている。戦後、土地改良が実施されたが、耕やもっこを使ったもので、それほど規模の大きな地形変化はなされてないと言ふが、46T以東については、こうした開発の影響による2次的な分布である可能性が残されており、



第14図 調査地位置図 (1/50,000)

第15図 調査トレンチ配置図(1/10,000)・土層柱状図(1/20)



留意が必要である。また、遺構・遺物分布の中心となる 94 T とその周辺は、緩斜面地の縁辺部に位置しているが、93 T と 95 T の間が谷地形となっているほか、152 T の東側は国道 404 号線に向かって下がつており、複雑な地形を呈している。

出土遺物の一部を第 16 図に示した。細片が多く、器形復元に至る資料は極めて少ない。須恵器は小泊窯産が占めることなどから、現時点では、その時期を 9 世紀後半～10 世紀前半と位置づけたい。

103・111 T 周辺 103・110・111 T で土坑、108 T で溝を検出した。特に 103・111 T では比較的集中しており、今回明確な配列を確認することはできなかったが、掘立柱建物跡に伴う柱穴が含まれる可能性が高い。この周辺では、遺物包含層となり得る土層がその大部分で既に失われており、いくつかの土坑を調査したもの、103 T の土坑覆土から出土した土師器細片 1 点を除いて、遺物が出土していない。現時点では、遺構及び遺構プランの形状等から判断して、これら遺構を中世に属するものとした。

その他 135 T から鉄滓片が 1 点出土している（第 16 図）。この他に 127・129・131 T で溝、128 T で土坑を検出している。130・133 T から出土した漆輪片（第 16 図）が近世の所産である可能性が高いことから、現時点では、これら遺構を近世に属するものと判断しておく。

まとめ 94 T 周辺については「岩田原遺跡」、103・111 T 周辺については「阿部田遺跡」として、それぞれ周知化する。

平成 21・22 年度の 2 カ年度にわたる試掘調査によって、上岩田地区で計画されている県営ほ場整備事業については、前年度の 2 遺跡（延命寺が原遺跡・延命寺北遺跡）を合わせた 4 遺跡に係る取扱い協議を進める必要が確認された。今後は遺跡の現状保存を前提に、県地域振興局と実施設計の検討・調整を図っていくこととなる。



第 16 図 出土遺物

8 大倉地区試掘調査

調査地 長岡市柳尾町大字大倉

調査面積 24m² (対象面積 660m²)

調査期間 平成 22 年 9 月 10 日

調査担当 小林 徳

調査に至る経緯 平成 20 年に長岡市水道局が柳尾町大倉地区における給水施設の設置を計画し、それに伴う埋蔵文化財の取扱いについて市教育委員会と水道局が協議を行った。市教育委員会は予定地内に周知の埋蔵文化財である柄倉遺跡が存在しているため、施工前に試掘・確認調査が必要な旨を事業者に伝えた。その後、浄水施設建設に伴い平成 22 年 5 月 28 日に再び協議し、柄倉遺跡から離れているが集落範囲が確定していないため周間に広がる可能性もあることから、平成 22 年度中に試掘調査を行うことで合意し、9 月 10 日に長岡市科学博物館により試掘調査が行われた。

調査地の概要 調査地は柄倉段丘と呼ばれる河岸段丘上で、畑地として使用されていた。刈谷田川右岸に立地し、400m ほど北には绳文時代の集落である柄倉遺跡が存在する。柄倉遺跡は绳文時代中期の石圓炉を持つ住居址が多数検出された遺跡で、火炎様式を中心とした土器のほか土偶など多くの遺物が出土している。

調査の結果 調査区内に 4 つの調査トレンチ (2m × 3m) を任意に設置して、バックホウにて慎重に掘削を行った。いずれも地表から 30 ~ 40cm ほどで地山層である黄褐色土層が検出された。遺構は検出されなかったものの、第 3 トレンチにおいて叩き石が 1 点出土した。出土地点の周辺を人力により詳細に確認したが、その他の遺物・遺構の検出はされなかった。

各トレンチとも表土層の下に黒色土層をもち、第 3 トレンチ以外ではその黒色土層下に地山層が存在した。第 3 トレンチではこの黒色土層内で叩き石が検出され、その下は地山層よりも少し暗い黄褐色土層が存在していたが、これは地山層と黒色土層との間の移行層とみられる。

調査の結果、遺物が 1 点出土したものの周辺から他の遺物・遺構は見つからなかったため、事業に支障はないが、掘削時などに遺物が検出された際は科学博物館まで連絡をするよう指示をし、調査を終了した。



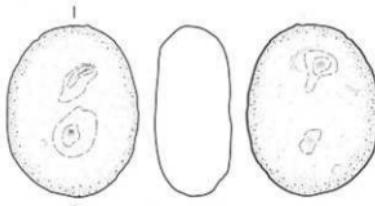
第 17 図 調査地周辺図 (1/50,000)



写真 14 第 1 トレンチ土層断面



第 18 図 トレンチ配置図 (1/2,500) 及び土層柱状図 (1/40)



第 19 図 出土遺物 (1/3)

参考文献

小国町教育委員会

1969 『礎文時代の延命寺が原』 小国町

小国町史編集委員会

1976 『小国町史』本文編 牧野功平（小国町）

越路町

1988 『越路町史』資料編1 原始・古代・中世 越路町

長岡市

1992 『長岡市史』資料編1 考古 長岡市

2007 『長岡市総合計画 基本構想 前期基本計画』

長岡市教育委員会

2006 『平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『平成19年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2009 『平成20年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2010 『平成21年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

和島村

1996 『和島村史』資料編1 自然・原始古代・中世・文化財 和島村

和島村教育委員会

1992 『和島村埋蔵文化財調査報告書第1集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会

1993 『和島村埋蔵文化財調査報告書第2集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会

1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会

1995 『和島村埋蔵文化財調査報告書第4集 門新遺跡』 和島村教育委員会

1996 『和島村埋蔵文化財調査報告書第5集 門新遺跡 外期田地区』 和島村教育委員会

2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第16集 八幡林遺跡IV』 和島村教育委員会

2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第17集 門新遺跡谷地地区II』 和島村教育委員会

報告書抄録

ふりがな	ハシヒイロジマウラムルダガガカシナヒセキハツクツカヨウカホウコクシ					
書名	平成 22 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書					
副書名						
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	丸山一昭・田中靖・島居美栄・新田康則・小林徳・加藤由美子・山智和也					
編集機関	長岡市教育委員会					
所在地	〒 940-0072 新潟県長岡市柳原町 2 番地 1					
発行年月日	2011 年 3 月 22 日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
かわひがいせき 川東遺跡	ながおかししまざきあざかわひが。684ばんちほか 長岡市島崎字川東 684 番地ほか	152021 1304	373451 1384631	20100603 ~ 20100603	12.0m ²	試掘・確認調査
うらんばくにいせき 瀬反南西遺跡	ながおかししまざき254ばんちほか 長岡市島崎 254 番地 2 ほか	152021 1396	375778 1387674	20100608 ~ 20101214	18.0m ²	試掘・確認調査
たてぼこいせき 立矛遺跡	ながおかしらいくごあさたてぼこ 長岡市東遊寺字立矛	152021 412	372327 1384628	20101124 ~ 20101125	103.0m ²	試掘・確認調査
じのばはらいせき 岩田原遺跡	ながおかしめぐらまちかあいいたれい。152021 1397 長岡市小国町上岩田字岩田原 755 番地ほか	152021 1397	371704 1384221	20101008 ~ 20101025	54.0m ²	試掘・確認調査
あべいせき 阿部田遺跡	ながおかしめぐらまちかあいいたれい。152021 1398 長岡市小国町上岩田字阿部田 20 番地ほか	152021 1398	371649 1384224	20101013 ~ 20101015	55.0m ²	試掘・確認調査
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
かわひがいせき 川東遺跡	散布地	平安	柱穴	須恵器・土師器		
うらんばくにいせき 瀬反南西遺跡	遺物包含地	奈良～平安	なし	須恵器・土師器		
たてぼこいせき 立矛遺跡	遺物包含地	绳文・弥生	土坑	绳文土器・弥生土器		
じのばはらいせき 岩田原遺跡	遺物包含地	平安	土坑・溝	須恵器・土師器		
あべいせき 阿部田遺跡	遺物包含地	中世	柱穴・土坑	土師器		

平成22年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成23（2011）年3月22日 印刷

平成23（2011）年3月22日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 有限会社トヤマ写真製版所
